

トライ 小論文講座

ボランティア活動

高一用紙
〇月号課題

〒102-0072
千代田区飯田橋
1-10-3
氏名 トライ 太郎
校名 会員番号

評価 (A~C)	
主題・論旨	C
段落・構成力	B
具体例	B
論拠	B
意見	A
説得力	C
用紙の使い方・文字	B
文法・語法	A
総合評価 (A~D)	B

「ボランティアのあり方」を独自の表現で明確に定義づけできています。論旨が一貫性をもたせよと、テーマからそれを配ってほしい。重要でない話題にあまり字数をとると、テーマからそればかりになる。必ず示した箇所を削ったり、書き換えたりする必要があります。自分のテーマを「同じ目線」としてキーマンを中心に据えて、肉づけていくと、論旨が明快になるだろう。

最近の報道

このごろ、テレビなどの番組で、新潟や福井の風土の被害を手にしているボランティアの方々をよく見る。ぼくは、その様子を見てすごいと思いい、こんなことをやってみたいと思った。ボランティアとは、お金をもらわずに人のために仕事をすることだと思ふ。ぼくは、これまでボランティア活動をしたことがない。中学校時代、学校の生徒会が中心になつて、カン捨いをしたことがあつたが、初めてめはめんじくさいと思つて、いたが、たんだん熱中してきて、とてもうれしかつたのを覚えていふ。ぼくはあつと、環境問題に関心があつたが、イオキシンの問題や、フロンガスによるオゾン層の破壊は、そもそも人間のしたことか原因になつて、ぼくもそんな大きなことはできないのだと思ふ。ぼくもそんな大きなことはできないが、身の回りの小さなことなら、何か人の役に立てるのではないかと思ふ。いっしょに住んでいる祖母は、二年前から

※このようなくらいに訂正してあげると、のめも加えらる。当時の思いは、ただでなく、人の展開に、このかた、

※ボランティアの経験の有無、途中の心の動きは、主張の本筋に関係ないので不要。

この一文は不要。環境問題にふれるあまり、ボランティアのテーマからそれてしまつたので注意。

この一文、ボランティアのあり方に対する独自の意見として、大変よい。

寝たきりで、ボランティアの入浴サービスを受けている。これから、高齢化社会となつていく中、家族だけでは介護できない現実がある。互いに助け合うことが大切になるだろう。そうすると、ボランティアをする人、される人に分かれるのではなく、自分のできることから協力し合う世の中が望ましいと思ふ。何かをしてやる、してもらうという関係ではなく、同じ目線で接することがボランティアの原点であり、だから、具体的な活動の内容よりも、まず基本的な心のあり方だと思ふ。世界のあちこちに、困っている人々がたくさんいるが、このボランティアの精神を当たり前のこととして、取り組んでいくことが、これからのぼくらの課題だと思ふ。ぜひ何かボランティア活動をしてみたい。この文章を書いて、そう強く思つた。

この部分は、主張が強く打ち出されていてよい。

重要なこと

「ボランティアのあり方」がテーマであるから、この一文を結論とするのではなく、その前の段落の内容を、自分自身と関連づけたものにふくらませて終わらせてほしい。